

平成27年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツ史特講		担当教員	藪 耕太郎			
領域水準コード	C2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
授業の概要							
本講義の目的は、「歴史」のコンテキストにおいて、広義の意味のスポーツのありようを批判的に検討することにある。どのような役割や意味を担ってスポーツは歴史に登場したのか、各時代・場所においてスポーツという文化を成立させた土壌とはなにか、いかにスポーツを通じて歴史を読み取ることができるか、そしてスポーツの歴史は「いま・ここ」といかなる関係を切り結ぶのか、といった点を歴史社会的に考察する。							
授業の一般目標							
①スポーツ史を歴史社会的な観点から解明する上で必要な知見の獲得 ②上記の知見を通じてスポーツを歴史的に追究できる能力の獲得 ③上記①②を、スポーツを取り巻く現状や課題と関連付けて考察できる能力の獲得							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	スポーツ史を歴史的な観点から解明する上で必要な知見を理解することができる						
■ 情意的領域	スポーツを歴史的に追究できる能力をもとに、スポーツを取り巻く現状や課題と関連付けて考察することができる						
■ 技能表現的領域							
授業計画(全体)							
教員が配布したレジュメに基づいて講義を行う。レジュメは各テーマごとにまとめた量を配布するので、各自事前に予習しておくことが望ましい。その際には「市民」「国家」「労働」など、幾つかの主要テーマを設定したうえで、そのテーマに関する4回分の講義をワンセットに授業を展開する。なお、各テーマの講義の深化を目的として、適宜討論の時間を講義時間中に設ける。							
授業計画(詳細)							
回	授業テーマとその内容						
1	ガイダンス 授業進行その他についての相互確認、および授業全体のテーマ設定についての説明	9	テーマ:権力と暴力② 内容:フーコーの権力論、とりわけ「規律=訓練型」権力と「生=政治」の意味について				
2	テーマ:労働と余暇① 内容:古代ギリシャ社会における余暇思想とH・アーレントによる「労働」「仕事」「活動」の意味について	10	テーマ:権力と暴力③ 内容:ドゥルーズ/ガタリが論じる「環境管理型」権力の意味とスポーツ(パーソン)の関係性について				
3	テーマ:労働と余暇② 内容:K・マルクスの労働概念、特に「生きた」労働の意味とP・ラファエルが提唱した「怠ける権利」の意味について	11	テーマ:国民と国家① 内容:ウェストファリア体制以降における主権国家のありかたとB・アンダーソン『想像の共同体』の意味について				
4	テーマ:労働と余暇③ 内容:余暇への期待と失望を巡るJ・デュマズディエの見解と現代社会における「自由時間」の意味について	12	テーマ:国民と国家② 内容:丸山眞男らの論にみる日本における中間団体の不在問題とスポーツによる思想善導・総動員体制構築の関係性について				
5	テーマ:市民と社会① 内容:J・ハーバーマスの見解に基づく公共圏の歴史的展開過程とアドルノ/ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』の意味について	13	テーマ:国民と国家③ 内容:前世紀転換期の「身体文化」ブームおよび帝国主義国家による植民地統治方法にみるスポーツを介した自発的同意の調達について				
6	テーマ:市民と社会② 内容:労働者階級と「労働力の再生産」としてのレクリエーションの誕生について	14	テーマ:近代と伝統① 内容:A・グットマンによるスポーツの発展段階論的アプローチの意味とその問題点について				
7	テーマ:市民と社会③ 内容:結社・アソシエーション・クラブ文化にみる市民参加・相互扶助の意味について	15	テーマ:近代と伝統② 内容:E・ホブズボウムの『創られた伝統』の理解に基づく、スポーツ=近代西洋文化、武道=伝統日本文化という通説的な二分法の批判について				
8	テーマ:権力と暴力① 内容:N・エリアス『スポーツと文明化』、E・ダニング『問題としてのスポーツ』に基づくスポーツと暴力の関係性について	16	テーマ:近代と伝統③ 内容:J・マグリワイアが示すスポーツのグローバリゼーションプロセスにおける文化混淆について				
授業外学習の指示等							
上記授業テーマの内容文に示した研究者(下線部参照)の著作・論文には事前に眼を通しておくことが望ましい。							
成績評価方法(方針)							
出席、発言など授業への積極的な取り組み姿勢(50%)、授業外レポート(50%)とする。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	受講に際しては、本科目が単なる「スポーツの歴史」の学習ではなく、むしろスポーツを通じて上記のテーマが持つ意味を歴史的に検討する科目であることを理解して臨むこと。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○		50%			
授業外のレポート							
ポートフォリオ							
出席	○	○		50%			
その他							
関連科目							
教科書	無し	参考書	上述の研究者の著作・論考の他、有賀郁敏編『近代ヨーロッパの探究8—スポーツ』2002、ミネルヴァ書房、および高津勝『日本近代スポーツ史』1995、創文企画を特に薦める。				
連絡先	藪研究室A棟305						